IP スピードドームカメラ

取扱説明書

目次

1. 正しくお使いいただくために

以下の警告・注意事項をお読みになり、安全にご使用ください

⚠ 警告　人が死亡、または重症を負う恐れがある内容です。

●電源は正しく使用する
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●湿気の多い場所では使用しない。
風呂場・炊事場など、湿気の多いところ、湯気、油煙、ほこりがあたるような場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●雷がなりはじめたときの対処
雷がなりはじめたら、すみやかに電源ケーブルをカメラ本体からはずしてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

●キャビネット外は絶対にはずさないでください。
火災・感電の原因となります。内部点検、調整、修理は販売店にご依頼ください

●機器に異常が生じたときの対処
万一煙がでている、変なにおいや音がする、本体を触ることができないほど発熱している場合などの異常状態になったときは、すみやかに電源ケーブルをカメラ本体からはずして販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

●改造は絶対にしないでください。
このカメラを改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●機器に水が入る可能性のある環境では絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。
降雨中、海岸、川岸水辺での使用は危険ですのでおやめください。

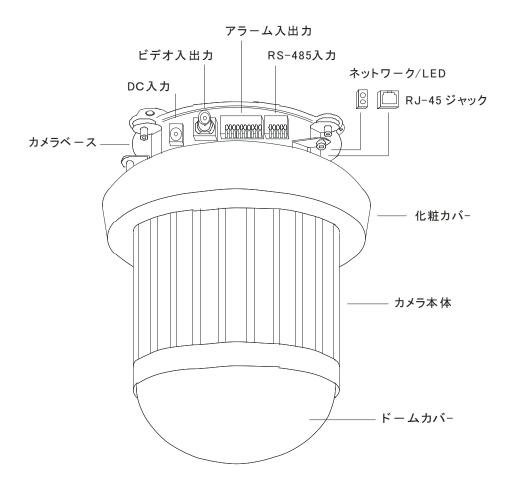
⚠ 人が障害を負ったり、財産が損害を受ける恐れのある内容です。

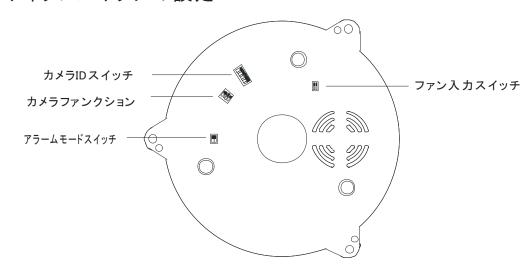
●直射日光や熱器具の近くは避けてください。
直射日光のあたる場所や熱器具の近くには置かないでください。内部温度が上昇して故障の原因となります。

●お手入れのとき
お手入れのときは、安全のため、作業の前に必ず電源ケーブルを本体から抜いてください。

●磁気を発生させる機器の近くには置かない。
磁気を発生させる機器の近くには置かないでください。磁気の影響をうけて、正しく動作しないことがあります。

2. 各部の名称

アラーム入出力
ビデオ入出力
RS-485入力
ネットワーク/LED
DC入力
RJ-45 ジャック
カメラベース
化粧カバ-
カメラ本体
ドームカバ-

3. カメラのセット方法

ディップスイッチの設定

ファン入力スイッチ

＊ 2番のスイッチonで電源入力
＊ 設置場所の温度が常温の場合はoffでも構いません。

カメラファンクション

＊ 1番 AGC　入力切替
* ２番 ＢＬＣ 入力切替
* ３番 ＦＬＣ 入力切替（50Hz地域はonの位置）

アラームモードスイッチ

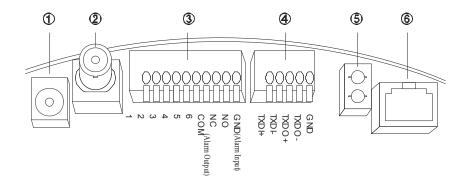
＊ 1番 ON 解除 OFF 固定*6入力 1出力が可能

＊ ２番 ON・クローズモード　OFF・オープンモード

4. カメラIDの設定チャート

64台迄接続出来ます。

1	17	33	49
2	18	34	50
3	19	35	51
4	20	36	52
5	21	37	53
6	22	38	54
7	23	39	55
8	24	40	56
9	25	41	57
10	26	42	58
11	27	43	59
12	28	44	60
13	29	45	61
14	30	46	62
15	31	47	63
16	32	48	64

5. 各コネクタ-の配置

① 電源入力

同梱のカメラ電源を接続 （DC12V入力 消費電力 1.2ADC）

② 映像出力

CVBS1.0Vpp 75ΩBNC

③ アラーム IN/OUT

最大アラーム入力 5.6V

出力 0.5A 120Vac/1A 24Vac

④ RS-485 入力/出力

キーボード、マトリックス、DVR、マルチプレクサ-等々からの信号は

TXDI+、TXDI-に接続。

複数のカメラを使用し、カメラ間を繋ぐ場合は、TXDO+/TXDI+, TXDO-/TXDI-

の順で接続。

推奨ケーブルは、0.75 以上のツイストペアケーブル(2 芯シールド)を使用。

（最長 1km迄）

⑤ パワ-・ネットワーク LED

＊ パワ-接続 ： 赤点灯

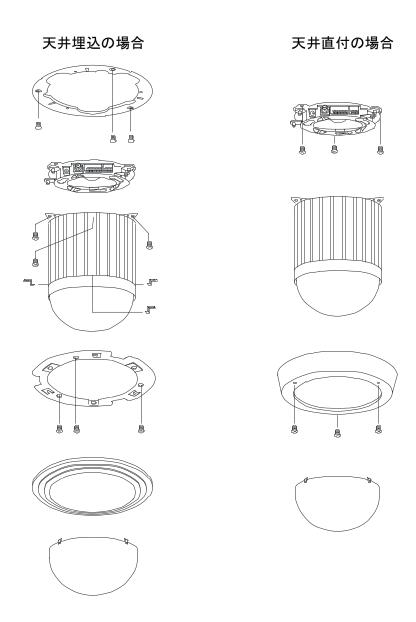
＊ ネットワーク ： リンク接続/赤点灯

入力/赤点滅

データ通信/緑点滅

⑥ RJ-45 ジャック

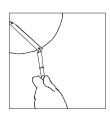
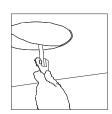
LAN ケーブ接続

6. 取付分解図

7. 設置方法

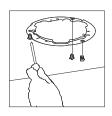
{天井埋込みの場合}

①

設置箇所の中心をドリルで 1mm程の穴を開ける

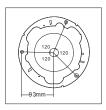
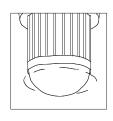
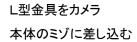
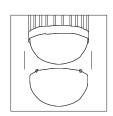
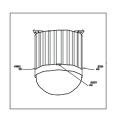
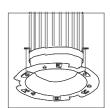
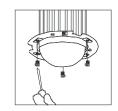
鉛筆ないしコンパスで直径 170mmの円を描きカットする

②

台座をはめ込む

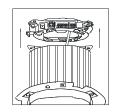
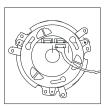
3ヵ所を取付ネジを通し天井押さえ板で固定

台座寸法及び取付ネジ位置

③

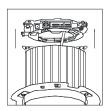
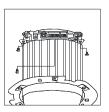
ドームカバ-を時計方向反対に回し外す

L型金具をカメラ本体のミゾに差し込む

固定リングを装着しネジ(黒)で固定

④

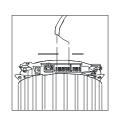
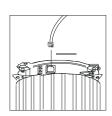
3ヵ所のネジを外しカメラ本体をカメラベースを分離　　　　ケーブルを外す

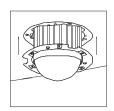
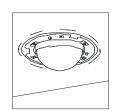
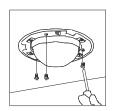
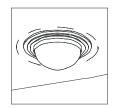
（時計方向反対に回す）

- カメラIDの設定
- アラームモードの設定
- カメラファンクションの設定
- ファンの入力切替

⑤

ケーブルを接続し直し、カメラ本体をカメラベースに装着、時計方向に回し位置を確認、ネジでカメラベースと固定

（*カメラの落下防止の為天井内の梁とカメラベースをワイヤで補強する事をお奨めします）

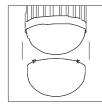
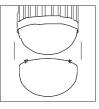
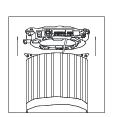
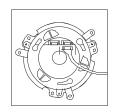
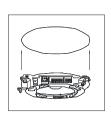
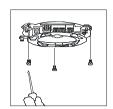
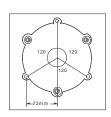
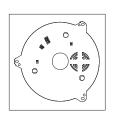
⑥ ケーブル接続

RS485 接続　　同軸ケーブル　　アラーム入力　　LANケーブル

⑦

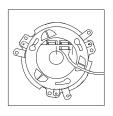
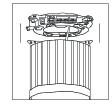
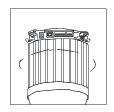
カメラ本体を天井内
に埋め込む

時計方向に回し
台座の留具に固定

3ヵ所をネジで固定

化粧カバ−を取付時計方向に回し固定

ド−ムカバ−を取付、時計方向に回し固定
ドームカバ−の汚れは乾いた布で拭いて下さい

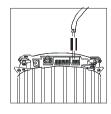
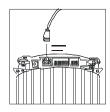
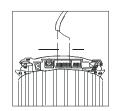
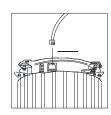
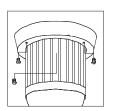
{天井直付の場合}

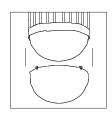
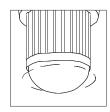
①

ドームカバ-を時計方向に回し外す　　　　　　3ヵ所のネジを外す

カメラ本体を時計方向反対に回しカメラベースと分離　　　　ケーブルを外す

カメラベースを天井に取付、ネジ(M6)で固定　　　　カメラベース及びネジ位置

②

各ディップスイッチ設定

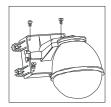
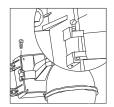
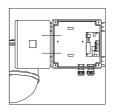
③

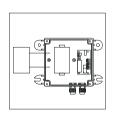
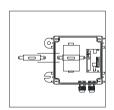
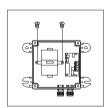
ケーブルを接続し直し、カメラ本体をカメラベースに装着、時計方向に回し留具に固定 （この時点では、ネジでの固定はしない）

RS485 入力　　同軸ケーブル　　アラーム入力　　LANケーブル

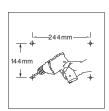
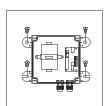
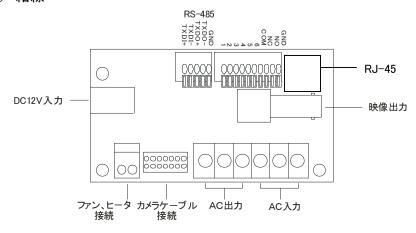
④

化粧カバ−を装着、カメラベース/本体と共にネジで固定

⑤　ドームカバ−を装着、時計方向に回しカバ−を固定

ドームカバ−の汚れ乾いた布で拭いて下さい

{屋外ハウジングに入れる場合}

① 電源ボックスとブラケットの分離

電源ボックスのネジを外す	ヒンジのネジを緩め外す	電源ボックスからハウジングを外す

② カメラ電源の設置

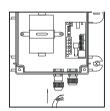
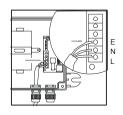
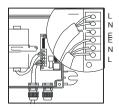
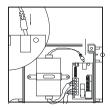
同梱されているカメラ電源をセットしクランプで 2 ヶ所をネジで固定

③ 電源ボックスの設置

図のサイズを基に4ヵ所穴を開け、ネジないしボルトで固定（M8-10 使用）

④ 結線

④-1 AC･DCケーブル接続

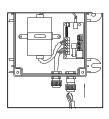
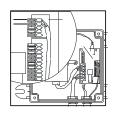
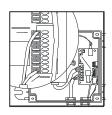
ノブを緩め ケーブルを通す

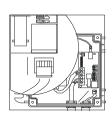
ACケーブル 入力端子

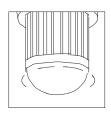
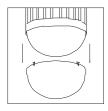
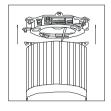
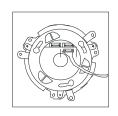
カメラ電源 AC出力端子

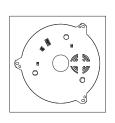
カメラ電源 DC入力端子

④-2 アラーム、RS-485, 映像ケーブル接続

RS-485 入力

アラーム入力

LANケーブル接続

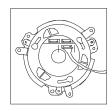
映像出力/BNC

⑤ ハウジングへの装着方法

時計方向反対に回しドームカバ-を外す　　　　3ヵ所のネジを外す

時計方向反対に回し、カメラベースと本体を分離　　　　ケーブルを外す

カメラベースを装着　　ケーブルを接続　　3ヵ所をネジ止め

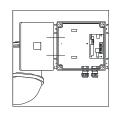
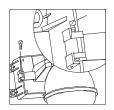
⑥

各ディップスイッチの設定

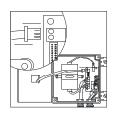
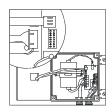
⑦

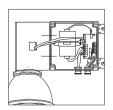
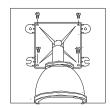
ケーブルの接続　　カメラ本体を時計方向に回し留具に固定　　3ヵ所をネジ止め

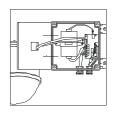
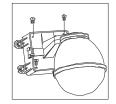
⑧

ハウジングカバ−を装着3ヵ所をネジ止め（ドームカバ−は装着しない）

⑨

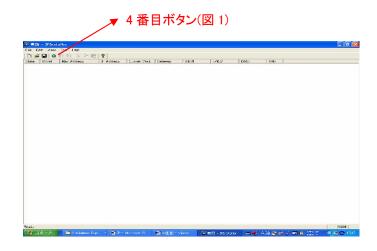
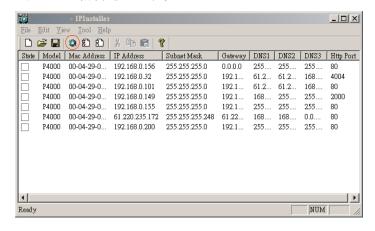
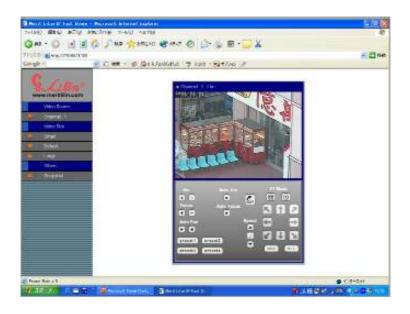
ブラケットを装着、ヒンジをネジで固定

ファン・ヒーター−ケーブル、カメラ本体のケーブルを接続

⑩

吊り下げ型

ブラケット・ハウシングを電源ボックスに装着、4ヵ所をネジ（M8−10）で固定

壁付け型

ブラケット・ハウシングを電源ボックスに装着、4ヵ所をネジ（M8−10）で固定

８.　ソフトのインストール

1. このソフトは　Windows98/ME/NT/2000/XP　に対応しています。
2. カメラには個別のIPアドレスが必要ですので事前に取得して下さい。
3. 同封のCDをインストールして下さい。
4. 完了後、IP Fast Dome の　IP Installer　をクリック。

クリックすると下記の画面になります。

5. カメラに電源が入っている事、LAN ケーブルが接続されている事を確認して下さい。
6. 4 番目のボタンをクリック　(図 1 参照)すると下記の様な接続されているカメラのIPが認識されます。

7.　必要な行を選択　--->Viewをクリック　--->　Open　Webを
をクリックすると選択されたカメラの映像が見られます。

９. IP スピードドームカメラの使い方

9-1　ビデオ・ホームページのブラウジング

ウェブ・ブラウザを起動し、アドレス・フィールドに URL(たとえば、http://219.84.24.109)を入力します。
IP　スピードームのホームページが、表示されます。

⇒Video Size(ビデオ・サイズ)
次のサイズで、スクリーン上のビデオ・サイズと外観を調節することができます。

ビデオ・サイズ	NTSC ビデオ
小(QCIF)	176×112
デフォルト(CIF)	352×240
大(FULL)	704×480

⇒Snapshot(スナップショット)
視聴中のビデオから写真を撮影します。

⇒Configure(設定)
IP スピードドームの Configuration(設定)ページをクリックします。

9-2 IP スピードドームの Configuration(設定)ページ

IP スピードドームの Configurations(設定)は、Configuration(設定)ページの余白部に、リンクとして表示されます。希望する設定のリンクをクリックします。

●Server Configurations(サーバー設定)

機能	説明
General	サーバー・ネームや言語などについて、さまざまな情報を設定します。
User	ユーザーとパスワードを設定および削除します。
Clock	製品の日付と時刻を設定します。
System	工場出荷時のデフォルト設定にリセットするコマンドを備えます。 システムを再起動して、設定を常設記録するために、フラッシュ・メモリに保存します。

●Network Configurations(ネットワーク設定)

機能	説明
General	IP アドレスを割当て、サーバーのネットワーク・パラメータを設定します。
DHCP	DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)は、ネットワーク管理者が、組織内のネットワークにおける IP(Internet Protocol)アドレスの割当てを集中的に管理し、自動化するのを可能にするプロトコルです。
DDNS	DDNS(Dynamic Domain Name Service)は、たとえば、http://219.84.24.109 の代わりに、http://demo.ddns.meritlilin.com など、記憶しやすい名称で、IP スピードドームにアクセスするために利用されます。

●I/O Configurations(I/O 設定)

機能	説明
Serial	COM1 と COM2 について、オペレーション・モードを選択します。
GPIO	General Purpose Input/Output(汎用 I/O)。イベントのトリガーとアクションの

ためのものです。

PTZ Device　(パン/チルト/ズームデバイス)PTZ デバイスに対応するドライバーを選択 PTZ デバイスをコントロールします。

●Video Configurations(ビデオ設定)

機能	説明
Time Stamp	(タイム・スタンプ)ビデオに時刻とテキストを表示します。
Quality	(クオリティ)ビデオのクオリティと圧縮レベルを調節します。

●Event Configurations(イベント設定)

機能	説明
Motion	イン・ピクチャ・モーション・サーチ・ウィンドウを作成し、有効にします。サーチ・ウィンドウにおいて大きな動きが生じるときに、アラームを起動させるために利用されます。
Script Edit	スクリプト・エディターは、上級の管理者や開発者に、ユーザーのニーズをに満たすため、特別にアプリケーションをカスタマイズするために、より高いレベルのフレキシビリティを提供します。参考ガイドとしてオンライン・ヘルプを利用することにより、上級のユーザーは、下記のインストラクションに従って、時刻やアラームで起動されるイベントのためのプログラミング・スクリプトをすばやく開発することができます。

9-3　Server Configurations(サーバー設定)

⇒Name(名称):サーバー名を指定します。

この名称の設定はまた、それぞれのサーバーを認識するために、Merit Li Lin DDNS サービスによっても利用されます(下記の DDNS 設定を参照)。たとえば、名称を DDNS アドレス ddns.lilin.com に対して company.user と設定すると、この IP Fast Dome は、DDNS サーバーへの登録の後に、URL http://company.user.meritlilin.com によってアクセスすることができます。

⇒Owner(オーナー):サーバー・オーナーを指定します。

⇒Owner Email(オーナーの E メール):

SMTP メール配信を利用するとき、返信用メールアドレスが正しく指定されないと、セキュリティ SMTP サーバーによっては、このメールの配信を拒絶する場合があります。

⇒MAC Address(MAC アドレス):

この Network Camera(ネットワーク・カメラ)の MAC アドレス情報を表示します。これは、読取専用です。

⇒Firmware Version(ファームウェア・バージョン):

ファームウェアのバージョン情報を表示します。

⇒Language(言語):代替言語オプション。
ユーザーは、別のアプリケーションについて、ウェブ・コンテンツの言語を変更することができます。

⇒Large size image using the true resolution (トゥルー・レゾリューションを用いるラージ・サイズ・イメージ):
インターレース・イメージを使用するために、ラージ・イメージを設定することができます。

⇒Live video using(ライブ・ビデオ使用):
MS Internet Explorer で、より良いパフォーマンスを得るために、Active X を選択するまたはより良いブラウザの比較可能性を得るために、Java Applet を選択することができます。

9-4 User Settings(ユーザー設定)

IP Fast Dome は、次のとおり、3 レイヤーのユーザー・セキュリティ・コントロールを提供します。

⇒Open for All(すべての人に開放)は、User Configuration(ユーザー設定)にユーザーを入力しなければ、工場出荷時のデフォルトです。インターネットのユーザーは、誰でも、Network Camera(ネットワーク・カメラ)をモニターおよび設定することができます。

⇒Restricted User(制限ユーザー)は、管理権限を持たない User Configuration(ユーザー設定)におけるユーザーです。このユーザーは、ビデオを視聴すること、ビデオ・サイズを変更するなど、限られた権限をもつように設定することができます。

⇒Administrator User(管理ユーザー)は、管理権限を持つ User Configuration(ユーザー設定)におけるユーザーです。このユーザーは、ソフトウェアの管理、設定、およびアップグレードなど、Network Camera(ネットワーク・カメラ)をオペレートするすべての権限を持ちます。

Append New User(新しいユーザーを追加する)

⇒Name(名称):ログインする新しいユーザーの名称。

⇒Password(パスワード):上記のユーザーのパスワード。

⇒Confirm Password(パスワードを確認):パスワードを確認するために、もう一度入力します。

⇒Permission to(権限):上記のユーザーが持つ権限を示します。

⇒Administration(管理権限):管理権限がなければ、ユーザーは管理ページに入ることができません。

注:初めてのユーザーは、管理権限を設定し、取得しなければなりません。さもないと、管理ページに入ることができなくなります。そのような事態が起こってしまった場合には、すべての

ユーザーを削除して、工場出荷時のデフォルト設定を利用しなければなりません。

⇒Change Video Size(ビデオ・サイズを変更):変更がなければ、CIF サイズのみが許可されます。

⇒Submit(投入)で、上記の新しいユーザーをリストに追加します。

⇒Cancel(キャンセル)で、上記のオペレーションを中止します。

初めて Submit(投入)を押すと、Network Camera(ネットワーク・カメラ)は、新しい管理者にログインするように要求します。
ユーザーをリストに追加した後に、リストのユーザーを選択して、変更(アップデート)するか、または特定のユーザーを削除することができます。
電源を切るとき、Network Camera(ネットワーク・カメラ)において既存のデータを変更する必要がある場合には、Save Changes(変更を保存)をクリックします。

9-5 Clock Settings(クロックの設定)

IP Fast Dome の内蔵のリアルタイム・クロックは、電源が切られているときでも、システムの正確な日付／時刻を提供します。
異なったタイム・ゾーンまたは長期にわたるオペレーションのために、クロックを調節する必要が生じた場合には、Time and Date(時刻と日付)の情報を入力して、Submit(投入)をクリックします。
PC のクロックによって IP Fast Dome の日付／時刻を設定するには、最下部の Set as PC clock(PC のクロックによって設定する)をクリックします。
電源を切るとき、Network Camera(ネットワーク・カメラ)において既存のデータを変更する必要がある場合には、最下部の Save Changes(変更を保存)をクリックします。

9-6 System Commands(システム・コマンド)

⇒Load Default(デフォルトをロード):Load Default(デフォルトをロード)は、ネットワーク設定以外のすべての設定を回復します。
注:工場出荷時のデフォルトは、作業設定を回復しますが、常設メモリには保存されません(したがって、ブートすると以前の設定に戻ってしまいます)。ブート設定を変更するためには、Save Changes(変更を保存)を設定しなければなりません。

⇒Save Changes(変更を保存):作業設定を常設メモリに保存して、リブートした後に回復します。

⇒Reboot System(システムをリブート):IP Fast Dome を再起動します。

9-7　Network(ネットワーク)

⇒IP Address(IP アドレス):IP スピードドームの IP アドレス。
⇒Subnet Mask(サブネット・マスク):LAN のサブネット・マスク。上記の IP アドレスと下記のゲートウェイ IP アドレスは、同じサブネットに属さなければなりません。
⇒DNS IP Address(DNS IP アドレス):ドメイン・ネーム・サーバーの情報は、IP スピードドームが、数字の IP アドレス(たとえば、168.95.1.1)ではなく、ニーモニック・ドメイン・ネームたとえば、ftp.MERITLILIN.com)によって、外部サーバーと接続するのを可能にします。
⇒Gateway IP Address(ゲートウェイ IP アドレス):インターネットへの IP スピードドームのトラフィックは、ゲートウェイを経由しなければなりません。これを設定しない場合には、イントラネット(LAN)しか、アクセスすることができません。
⇒HTTP Connection Port(HTTP 接続ポート):クライアント(ブラウザ)接続のための HTTP ウェブ・サーバーのリッスン・ポートを指定します。デフォルトでは、ポート 80(HTTP 標準ポート)、有効範囲 0～65535 を利用します。

注:リッスン・ポートを変更する前に、ユーザーは、適正な接続を得るために、ブラウザの URL に、ポート・ディレクティブ「:」を追加しなければなりません。
(つまり、http://<IP>:<ポート>、たとえば、IP 192.168.0.200 およびポート 8000 の IP スピードドームにアクセスするには、http://192.168.0.200:80000 となります)。
これらの特徴は、ユーザーが 1 つの IP アドレス持つ 65536 IP Fast Dome にアクセスすることができる NAT または IP シェアリング・デバイスの背後で、IP スピードドームを利用するのを可能にします。
工場出荷時のデフォルトは、IP アドレスとポート設定を変更しません。IP Fast Dome の固有のポートを忘れてしまった場合には、ポート設定を 80 に戻すために、ARP & Ping 設定を利用しなければなりません(「Assign IP Address by ARP」(ARP による IP アドレスの割当て)の章を参照)。
設定を有効にするためには、必要に応じて、最下部の Submit(投入)をクリックすると、IP スピードドーム、自動的に、設定を保存し、システムをリブートします(ブート・シーケンスは、5 秒以内に完了します)。

9-8　SMTP Settings(SMTP 設定)

⇒Sender' s Email Address(送信者の E メールアドレス):E メールアドレスを入力します。
⇒SMTP Server Address(SMTP サーバー・アドレス):SMTP サーバーの IP アドレスを入力します。

⇒Authentication(認証):SMTP サーバーが有効な認証機能を持つ場合には、適正に認証されるために、ユーザー・ネームとパスワードを入力しなければなりません。
⇒IP Address(IP アドレス):IP スピードドームの IP アドレス。

9-9 DHCP Settings(DHCP 設定)

⇒DHCP Setting(DHCP 設定):LAN に DHCP サーバーがインストールされている場合には、IP アドレス・サブネット・マスク、デフォルト・ゲートウェイ、および DNS サーバーなどのネットワーク設定を DHCP に自動的に取得させることができます。割当てられた IP アドレスは、DHCP サーバーから取得するたびに、ダイナミックに変更されることが可能であるため、弊社は、どの IP アドレスが取得されるかユーザーに通知する IP Notification(IP 通知)と呼ばれる方法を提供します。
⇒IP Notification by FTP(FTP による IP 通知):FTP サーバーがネットワークにインストールされている場合には、IP スピードドームに新しく割当てられた IP アドレスを取得するために、このオプションを有効にすることができます。IP スピードドームに接続するアップロード・パスの下に、NewIP_xxxxxx.htm という名称の HTML ファイルが、表示されます。xxxxxx は、シリアル番号の末尾 6 桁です。
⇒Login Name(ログイン・ネーム):FTP アカウントの名称。
⇒Password(パスワード):FTP アカウントにログインするために使用されるパスワード。
⇒Upload Path(アップロード・パス):ファイルをアップロードするパス。
⇒IP Notification by E-mail(E メールによる IP 通知):このオプションが有効にされると、DHCP から IP アドレスを取得すると、IP Fast Dome が E メールを送信します。
⇒Recipient(受信者):E メールアドレス。
⇒Message subject(メッセージの件名):この E メールの件名。

9-10 DDNS Settings(DDNS 設定)

DDNS(ダイナミック DNS:Dynamic Domain Name Service)はユーザーが http://61.220.235.172 の代わりに、http://demo.ddns.meritlilin.com など、記憶しやすい名称で IP Fast Dome にアクセスするために利用されます。
このサービスは、IP Fast Dome が、ダイヤルアップ ADSL または IP シェアリング・デバイスの背後に位置しており、決まった IP アドレスを持たず、インターネットから IP Fast Dome にアクセスすることができないときに有効となります。
DDNS サービスのメカニズムは、次のように説明されます:

1. IP スピードドームが DDNS サービスを有効にする場合には、アクセスするサーバー・ネーム、ルーターのバーチャル・ポート・ナンバー、アップデートされた周波数など、その情報を DDNS サーバーに登録します。

2. 次に、IP スピードドームが固定周波数により DDNS サーバーに対して自動的にアップデートし、IP が ISP により変更される場合でも、DDNS サーバーはなお、内部データベースを取得し、アップデートすることができます。
   次に、ユーザーが登録名称によってインターネットからアクセスすると、たとえば、DDNS サーバー「ddns.meritlilin.com」にサーバー・ネーム「demo」登録すると、
   IP スピードドーム Fast Dome は、http://demo.ddns.meritlilin.com によってアクセスすることができます。
   注：DDNS サービスは、固有財産であり、DDNS サーバーと LILIN ブランド製品にしか機能しません。

⇒Dynamic DNS Activate(ダイナミック DNS 起動)：DDNS サービスを起動するために、クリックします。
⇒Dynamic DNS Address(ダイナミック DNS アドレス)：DDNS サーバーのアドレスを指定します。デフォルトは、「ddns.meritlilin.com」です。
⇒Dynamic DNS Port(ダイナミック DNS ポート)：DDNS サーバーのリッスン・ポートを指定します。デフォルトは、80 です。
⇒Router Incoming Port(ルーター・インカミング・ポート)：DDNS サーバーを誘導するためのルーターのリッスン・ポートを指定します。ルーターは、インカミング(インターネット・リクエスト)とアウトゴーイング(イントラネット・リクエスト)に対して、異なるポートを設定することができます。たとえば、インターネット HTTP(ポート 80)のリクエストをイントラネット・ポート 8000 に誘導するように設定することができ、その場合は、Router Incoming Port(ルーターのインカミング・ポート)を 80 に設定しなければなりません。内部の IP スピードドーム me のネットワーク設定は、HTTP ポートを 8000 に設定しなければなりません。
⇒Update Time(アップデート・タイム)：秒単位の IP スピードドームのアップデート周波数を指定します。デフォルトは、600(10 分)です。これは、IP スピードドームが DDNS サーバーに対してアップデートされたパケットを自動的に送信する間隔です。
⇒DDNS Message(DDNS メッセージ)：リモート DDNS サーバーからの返信メッセージ。幾つかのヒントが、登録が失敗した場合の理由を診断するのに役立ちます。

- ddnsaddr CGI fail(DDNS アドレスの CGI の失敗)：これは、IP Fast Dome がインターネットで通信できないことを意味します。Network Configuration(ネットワーク設定)が正しいサブネット・マスクとデフォルト・ゲートウェイを持っていること、DNS1 の設定が正しく、アクセス可能であることを確かめてください。
- Already registered(すでに登録されています)：別のユーザーが、その名称をすでに登録しています。「Server General Settings」(サーバーの全般的設定)の章のサーバー・ネームを変更することにより、登録名称を変更してください。

例：ダイヤルアップ ADSL ルーターの背後に IP Fast Dome(IP アドレス 192.168.0.200)を

セットアップし、名称 http://demo.ddns.meritlilin.com によってアクセスしようとします。

手順は、次のとおりです。
》PPPoE 有効、LAN IP 192.168.0.254、サブネット・マスク 255.255.255.0 で、ADSL ルーターを設定します。
》サービス・ポート 80 の ADSL ルーターのバーチャル・サーバーをサーバーIP 192.168.0.200 に割当てます。
》IP アドレス 192.168.0.200、サブネット 255.255.255.0、168.95.192.1 または 168.95.1.1 などの有効な DNS アドレスを持つ DNS1、ゲートウェイ IP アドレス 192.168.0.254(ルーターの IP)、ポート 80 の HTTP ポートで、ネットワーク設定を設定します。
》「Server General Settings」(サーバーの全般的設定)の章のサーバー・ネームを demo で設定します。
》DDNS を、Activate(アクティブ化)、Address(アドレス)「ddns.meritlilin.com」、DDNS ポート 80、Router Incoming(ルーター・インカミング)ポート 80、アップデート・タイム 600(10 分)で設定し、最後に Submit(投入)をクリックします。
》DDNS メッセージが成功したら、ブラウザに URL http://demo.ddns.meritlilin.com を入力します。それによって、IP スピードドームのホームページが表示されます。

電源を切るとき、IP Fast Dome において既存のデータを変更する必要がある場合には、Save Changes(変更を保存)をクリックします。

9-11 GPIO Status(GPIO ステータス)

GPIO(汎用 I/O:General Purpose Input/Output)のステータスを表示します。GPIO Terminal Block(GPIO ターミナル・ブロック)／MINI DIN は、4 つの GPIO インプットとリレー・ジャンクションとしての 1 つの GPIO アウトプットを含む、制御信号インプットとアウトプットを提供します。詳細な説明は、付録 E「I/O & COM port」(I/O と COM ポート)を参照してください。
⇒Set the relay(リレーを設定する):リレーを ON または OFF に設定するには、ラジオ・ボタンをクリックします。

9-12 PTZ Adjustment(プリセット・オートパンの設定)

⇒Configure をクリック
⇒PTZ Device をクリック。

● 操作方法 (総てマウスで操作)

● プリセットの方法

⇒Camera ID　　カメラ番号を選択 （1～64番迄）
⇒Preset Point　　プリセット位置を選択 （1～128迄）
　例　Preset Point 1.　カメラを動かし位置を決める。
　　　　　　　　　　　必要に応じ、ズーム・絞り・ピント調整をする。
　　　　　　　　　　　「Save」で決定。
　　　*注 ： 2,3 番目以降設定する際、カメラは一度本来の位置に移動します。
⇒Auto Pan　　開始をクリックすると、設定した順にオートパンを始めます。
⇒Preset1 Preset2 Preset3 Preset4 を其々クリックすると、1 から 4 番目迄のプリセット位置を即座に呼び出せます。

● Choose preset groups for autopan （ツア-の設定）*
ツア-は 1～16 番のプリセット位置で行う。
1～16 番のプリセット位置は次のようにグループ分けされている。

Group1 （preset point＝1,2,3,4）
Group2 （preset point＝5,6,7,8）
Group3 （preset point＝9,10,11,12）
Group4 （preset point＝13,14,15,16）

必要なグループをクリック－＞「Save」で決定。 それによりツア-が行われる。

● プリセットの解除
「clear all preset」で総て解除される。

9-13 Video Setup(ビデオのセットアップ)

Time Stamp(タイム・スタンプ)
　ビデオで Time Stamp & Text(タイム・スタンプとテキスト)を表示し、次のチェック・ボックスをクリックします。
⇒Display Time　　時間を表示します。
⇒Display Text　　テキスト表示します。
　有効な文字は、「a～z」、「A～Z」、「0～9」、「!」、「@」、「#」、「$」、「%」、「&」、「*」、「(」、「)」です。Time/Text(タイム/テキスト)の位置を変更するには、X と Y の座標を記入します。

注：最大表示ブロック・エリア(タイム＋テキスト)は、12×4 文字です。
12 を超えるストリングは、次の行に改行され、全部で 4 行使用することができます。 4 行を超えるものは、削除されます。

9-14 Video Adjustment(ビデオ調節)

IP スピードドームは、自動的に NTSC/PAL を検出することができ、ビデオ信号は、完全に自動的に起動／終了しますから(プラグ・アンド・シー)、ユーザーの設定を必要としません。
⇒Quality Adjustment(クオリティー調節)：
ビデオのコントラスト、輝度、色相、彩度、クオリティーを調節します。クオリティー・レベルは、ビデオの圧縮率やファイル・サイズに影響を及ぼすことに注意してください。

NTSC		
レゾリューション	ファイル・サイズ(kb)	最大 fps
4CIF(704×480)	7-160	3
CIF(352×240)	2- 50	30

(最大パフォーマンスは、1 人のユーザーと使用中の 1 つのビデオ・ソースから導かれています)
⇒Frame Delay(フレーム・ディレイ)：フレーム間のディレイ・タイムを設定します。
ディレイ・タイムの単位は、10 マイクロセカンドです。フレーム・ディレイがビデオ・ストリーのフロー・コントロールを行うように設定することによって、アウトプットのバンド幅を制限することができます。値を 0 に設定すると、ビデオ・ストリームに対する制限がないことを意味します。

電源を切るとき、Network Camera(ネットワーク・カメラ)において既存のデータを変更する必要がある場合には、最下部の Save Changes(変更を保存)をクリックします。

9-15 Event Management(イベント管理)

Motion Area Selection(モーション・エリアの選択)
⇒Motion Detection Region Selection(モーション・サーチ領域選択)：
ホワイト・ブロックを伴うビデオ・ウィンドウの領域にマウスを動かして、
モーション・トリガー域を決定します。
マウスの左ボタンをクリックして設定すると、選択された領域は、レッド・ブロックに変化します。

9-16 Event Edit(イベント・エディット)

さまざまなレベルのカスタマイズ機能を組み込むことができます。そのようなカスタマイズ機能は、イベント・マネージャーを通して、組み込むことができます。イベント・システムは、管理者が、モーション・サーチ、IO コントロール、FTP、E メール送信などのイマージェンシー・イメージを記録するのを可能にする、幾つかのトリガー・ソースおよびアクション・タイプを提供します。
これは、簡単なフォームに記入して、送信するだけの容易なプロセスです。
IP スピードドームのイベント・マネージャーは、幾つかのイベントの組合せである、プログラム可能な Event Scripts(イベント・スクリプト)をとおして、イベント・コントロールを提供します。
ぞれぞれのイベントは、同時に機能します。イベント・スクリプトのトリガー条件の 1 つが満たされると、それに応じて、対応するアクションが実行を開始します。包括的なトリガー・アクションとアクション・コマンドの組合せは、さまざまなアプリケーションに制限なく適合します。
注:プログラム可能なイベント・スクリプトは、ファームウェア(バージョン 2.0)以降、サポートされています。「Server General Settings」(サーバーの全般的設定)の章で、現在のファームウェアのバージョンをチェックしてください。

イベント・マネージャーを起動するには、Event(イベント)アイコンをクリックすると、イベント・フレームが、次のようにポップアップ表示されます。
イベント・フレームは、主に、上部の編集ウィンドウ、中部のステータス・ボックス、下部のメッセージ・ウィンドウ、最下部のコントロール・アイコンに分割されます。
イベント・スクリプトを入力するには、2 つの方法があります。1 つは、手順に従って幾つかの項目を入力する Script Wizard(スクリプト・ウィザード)を利用します。スクリプト・ウィザードは、ウィンドウを編集するための新しいスクリプト・コードを生成・追加します。もう 1 つの方法は、手動でフォームを編集します。これは、イベント・オペレーションの機能を詳細にコントロールすることを希望する経験豊富なユーザーのための方法です。
詳細なシンタックスとオプションの説明については、http://www.meritlilin.com からダウンロードすることができる「Event Script Programmers Guide」(イベント・スクリプト・プログラマーズ・ガイド)を参照してください。

⇒Event Script Edit(イベント・スクリプト・エディット):イベント・スクリプトを手動で入力するためのテキスト・ウィンドウ。
⇒Event Status(イベント・ステータス):イベント・ステータス、Stop Now(停止する)または Start Now(開始する)を表示します。
⇒Message(メッセージ):次のコマンド・アイコンがクリックされた結果を表示するウィンドウ。
通常、OK、Parsing(解析)、Fail(実行不能)、または構文解析のシンタックス・エラーを表示し、

スクリプトのエラーの位置から開始する Err String(ストリング・エラー)を表示します。

⇒Save Script(スクリプトを保存):Event Script Edit(イベント・スクリプト・エディット)ウィンドウにおけるカレント・スクリプトを保存・解析するコマンド。シンタックス・エラーが検出されると、シンタックス・エラーの開始位置を示すエラー・メッセージが Message(メッセージ)ウィンドウに表示されます。

⇒Event Auto Start When Power On(電源が入るときイベントを自動実行する):
このフラグは、システムに電源が入ったときスクリプトが自動的に実行されるように設定します。

注:Event Script Edit(イベント・スクリプト・エディット)ウィンドウにおける変更は、Start Script(スクリプトを実行) する前に、Save Script(スクリプトを保存)しなければなりません。
さもないと、新しい変更が失われ、有効になりません。
また、メインの Administration panel(管理パネル)で Save Changes(変更を保存)ボタンをクリックしなければ、変更は常設メモリに保存されません。

⇒Clear(クリア):Event Script Edit(イベント・スクリプト・エディット)ウィンドウをクリアするコマンド。

⇒Start Script(スクリプトの開始):スクリプトの実行を開始するコマンド。

⇒Stop Script(スクリプトの停止):スクリプトの実行を停止するコマンド。

⇒Script Wizard(スクリプト・ウィザード):スクリプト・ウィザードを開始するコマンド。
スクリプト・ウィザードは、ユーザーがウィザードによって簡単なスクリプトを自動的に作成するのを助けますが、部分的なトリガーやアクションのコマンドをサポートするのみです。
イベント・スクリプトの完全な機能を十分に利用するためには、「Event Script Programmers Guide」(イベント・スクリプト・プログラマーズ・ガイド)を参照してください。

⇒Set Motion Detection Area(モーション・サーチ領域の設定):モーション・サーチを起動するためには、サーチ領域を選択し、手動またはウィザードで、モーション・サーチ・スクリプトを開始しなければなりません。

⇒Help(ヘルプ):スクリプトのヘルプは、トリガーとアクションのコマンドのシンタックスをすべてリストしています。

10.　仕様

型　名	MSD－7625NF	MSD－7600NF	MSD－7000NF
電気系			
信号方式	NTSC		
入力電圧	DC12V		
消費電力	13W		
ズーム比	25 倍	22 倍	17 倍
ズームスピード	Tele～Wide3.5 秒	Tele～Wide6 秒	Tele～Wide5 秒
撮像素子	1/4 インチ Exview HAD CCD	1/4 インチ CCD	
有効画素数	38 万画素		
走査方式	2:1 インターレース		
走査周波数（H／V）	15.734KHz/59.94Hz		
同期方式	内部同期		
最低被写体照度	0.01Lux(F1.6 20IRE)白黒	0.8Lux(F1.6 20IRE)	0.7Lux(F1.6 20IRE)
水平解像度	570TV 本(B/W)/480TV 本(ｶﾗｰ)	480TV 本	
S／N比	50dB		
AGC	8dB,22dB,36dB(3 段階)	20dB(ON/OFF)	
逆光補正	ON/OFF、有効ｿﾞｰﾝ	ON/OFF	
ホワイトバランス	自動/マニュアル		
アイリス制御	自動/マニュアル		
フォーカス	自動/マニュアル		
ビデオ出力	BNC×1, コンポジット 1.0Vp-p/75Ω		
レンズ系			
焦点距離	3.8～95mm	3.9～86mm	3.9～66.3mm
アイリス	F1.6～F3.7	F1.6	F1.4
水平画角	2.7°～ 63.8°	2.4°～ 50.9°	4.2°～ 50.9°
垂直画角	2.0°～ 46.7°	1.8°～ 38.2°	3.2°～ 38.2°
制御系			
水平回転	360°回転		
垂直回転	-5°～＋95°		
水平・垂直精度	±0.25°		
マニュアルスピード	0.18°～180°/秒		
プリセットスピード	1°～255°/秒		
プリセット休止時間	1～255 秒		
グループセティング	4 グループ		
プリセットポジション	128 箇所		
インスタントフリップ	180°		
プリセットリコールスピード	360°/秒		
アラームトリガースピード	360°/秒		
アドレス　セティング	1～64		
インタフェース	RS-485		
ケーブル種類	UL24AWG×2C ツイストペア(推奨)		
アラーム入力	6		
アラーム出力	1(N.C./N.O.)		
その他			
使用温度	-5℃～＋50℃		
使用湿度	0%～90%		
外形寸法図（本体）	145φ×208mm		
質量	2.5kg		
付属品	AC アダプタ、天井埋込･直付用金具		

11.　Network(ネットワーク)

CPU	32 ビット RISC プロセッサー。
ROM	24 メガバイト・フラッシュ ROM。
RAM	16 メガバイト SDRAM。
Watch Dog（ウオッチ・ドッグ）	許容システム電圧と異常なプログラム実行を監視するチップ。
LED	フォトカプラの 4 つのアラーム・インプットと 1 つのリレー・アウトプットを完全に備えた、ネットワークと電源／システム・ステータス GPIO を表示する 2 つの LED。
Image Compression（イメージ圧縮）	JPGE；Motion JPEG(モーション JPEG)。
Video Adjustment（ビデオ調節）	Brightness(輝度)、Contrast(コントラスト)、Hue(色調)、Saturation(彩度)、個別のビデオ・チャンネルに対する Quality Level(クオリティー・レベル)調節。
Protocols（プロトコル）	TCP/UDP/IP、ARP、ICMP、HTTP、FTP、Telnet、SMTP、DHCP、PPP。
Max. Resolution(最大)	Single(シングル)：NTSC(704×480) Quad(4 分割)：NTSC(352×240)
Performance（パフォーマンス）	ビデオ・スループット：最大 30 フレーム／秒 ネットワーク・スループット：最大 800 キロバイト／秒
Event Trigger & Action（イベントのトリガーとアクション）	ウィザードによりサポートされたプログラム可能なイベント・スクリプト。 トリガー：時間(周波数)／GPIO インプット／モーション・サーチ／ビデオ／ネットワーク接続／CGI ほか。 アクション：内部バッファーへのイメージの保存、リモート・サイトへの FTP イメージ、アカウントを指定する E メール・イメージ、リモート・サイトへの HTTP サーバー・プッシュ、外部デバイスをコントロールするリレー・アウトプットほか。
Installation(インストール)	IP アドレスの割当て：ARP または Via Admin Web Page もしくは IP Installer(IP インストーラー)の利用。

Software Upgrade (ソフトウェアのアップグレード)	FTP および Telnet を経由してアップデートされる FTP Custom ウェブ・コンテンツを利用してアップグレードすることができるローカルまたはリモートのソフトウェア。
System Requirement (システム要件)	Win95/98/NT、Linux 等で作動する Microsoft IE4.x または IE5.x 以上、Netscape Navigator4.x などの標準のブラウザ。
Security(セキュリティ)	3 レイヤーのパスワード保護。

12. 付録

付録 A ソフトウェアのアップグレード

IP スピードソームソフトウェアは、フラッシュ・メモリ(消去と書込みができるシリコン・チップ)に書き込まれます。これは、ネットワークから最新のソフトウェアをロードするだけで、なにも変更せずに容易にアップデートすることができます。

次に、このソフトウェアをアップデートする手順を示します。

⇒ソフトウェアのバージョンをチェックする

ウェブ・ブラウザに URL 「http://< IP Fast Dome の IP アドレス>/ver」と入力すると、ソフトウェアのバージョンが表示されます。

例:

Microsoft IE5 の URL 入力ボックスに「http://192.168.0.200/ver」と入力すると、「Software Version=1.11 Revision 0905.1641」とソフトウェアのバージョンが表示されます。これは、現在のソフトウェアのバージョンが 1.11 であることを示します。

注:「Server General Settings」(サーバーの全般的設定)の章の設定ページで、ソフトウェアのバージョンを知ることもできます。

⇒ソフトウェア(flash.bin)の取得

IP Fast Dome ソフトウェアの最新バージョンは、LILIN Corporation またはローカル・ディストリビューターから無料で入手できます。また、インターネットで、このソフトウェアを入手することができます。

URL:http://www.meritlilin.com。

⇒FTP を経由したアップグレード手順

- 最新のソフトウェアをダウンロードし、ローカル・ドライブ(たとえば、C:/temp)に保存し、flash.bin ファイルがこのディレクトリに存在することを確認します。
- すべてのイベント設定を削除し、IP Fast Dome をリセットします。
  イベント・スクリプトを削除する 2 つの方法があります。1 つは、Clear(クリア)を選択し、Event Script Edit(イベント・スクリプト・エディット)ページの Save(保存)アイコンを利用して、イベント・スクリプトをエンプティに設定します。
  もう 1 つの方法は、Server/System(サーバー/システム)ページの Load Default(デフォルトをロード)アイコンをクリックして、すべての設定をリセットします。しかし、これは、イベントを削除するだけでなく、すべての他の設定を削除します。
  次に、Reboot System(システムをリブート)をクリックして、Network Camera(ネットワーク・カメラ)を再起動するか、またはブラウザに CGI コマンド URL「http://< IP Fast Dome の IP アドレス>/control?reboot=1」を入力します。
  注意:次の手順を実行する前に、すべてのイベントを削除し、ネットワーク・カメラをリブートしなければなりません。さもないと、内部衝突によって、フラッシュ・デバイスを損なう危険があります。

⇒FTP セッションを開始し、IP Fast Dome にログインします

たとえば、Windows98 の場合には、

- Start(開始)→Program(プログラム)→MS-DOS Prompt(MS-DOS プロンプト)によって DOS を入力します。
- 最新の flash.bin が存在するディレクトリに変更します。
- 「ftp<IP Fast Dome の IP アドレス>」を入力することによって ftp セッションを開始します。
- User List(ユーザー・リスト)記録にユーザーが存在しない場合には、USERNAME として root を、PASSWORD として pass を入力します。ユーザー・リストが存在する場合には、ログインするために、管理者の USERNAME と PASSWORD を使用しなければなりません。

⇒コマンド bin を利用して、FTP をバイナリー・モードに設定します。

- FTP セッション・ウィンドウで、bin を入力します。

⇒FTP の put コマンドによって、ソフトウェアを IP Fast Dome にアップロードします。

- FTP セッション・ウィンドウで、put flash.bin を入力します。
- FTP セッション・ウィンドウで、bye を入力して、FTP セッションを終了します。

⇒FTP セッションは、ソフトウェアを転送して自動的にアップグレードするのに、1 分間ほどフリーズする場合があります。その間も、一定の応答が得られるまで、IP Fast Dome に ping コマンドを実行します。システムは、アップグレードを完了し、リブートします。

次に、ブラウザを開いて、ソフトウェアがアップデートされていることを確認します。

注：FTP セッションが、コマンドによって命令された後で、即座に終了した場合でも、IP スピードドームに ping コマンドを実行し続けなければなりません。ping コマンドを実行した後に、IP スピードドームが ping コマンドに応答する場合には、IP Fast Dome は、自動プログラミングの段階に入って、ソフトウェアのバージョンを確認することができないことを意味します。アップデートされない場合には、IP スピードドームをリブートし、ステップ 3 をもう一度試してください。

```
C:/temp>ftp 192.168.0.200
192.168.0.200 に接続されます
220.192.168.0.200 MERITLILIN FTP サーバー(ARM REV 3.0.H)
Ready(準備完了)、

User(192.168.0.200：(none)) root
331 ルートに要求されるパスワード
Password(パスワード):                <=デフォルトで pass を入力します
230 ログインされるユーザー・ルート

ftp>bin
200 I に設定されるタイプ

ftp>put flash.bin
200 PORT コマンド成功
150 flash.bin 用の BINARY モードのデータ接続のオープン
226  転送の終了

ftp：10.11 秒で 2097152 バイトを転送。207.43 キロバイト／秒
ftp：bye
221 Goodbye。 <=ftp セッションを即座に終了
            <=ウィンドウがフリーズした場合には、もう一度 dos セッションを開始してください。
```

```
C:/temp>ping-t 192.168.0.200

32 バイトのデータで、192.168.0.200 に ping コマンドを実行

リクエストのタイム・アウト。
リクエストのタイム・アウト。
リクエストのタイム・アウト。
リクエストのタイム・アウト。
リクエストのタイム・アウト。
リクエストのタイム・アウト。
リクエストのタイム・アウト。
リクエストのタイム・アウト。
192.168.0.200 からの応答：バイト＝32　時間＝2 分　TTL＝255
192.168.0.200 からの応答：バイト＝32　時間＝1 分　TTL＝255
192.168.0.200 からの応答：バイト＝32　時間＝10 分　TTL＝255
192.168.0.200 からの応答：バイト＝32　時間＝10 分　TTL＝255
192.168.0.200 からの応答：バイト＝32　時間＝10 分　TTL＝255

192.168.0.200 についての ping コマンド統計：
  パケット：送信＝13　受信＝5　損失＝8(61%の損失)、
  ミリセカンド当りのラウンド・トリップ時間の概数：
  最小＝0 分、最大＝2 分、平均＝0 分

Control-C

C:/temp>
C:/>
```

注：アップデート・オペレーションが正しく実行されないと、フラッシュ製品が損傷する可能性があります。ですから、必ず上記の手順に従ってください。

付録 B カスタム・ウェブ・ページのアップデート

IP スピードドームは、内蔵のウェブ・サーバーを持っていますから、ウェブ・コンテンツは、フラッシュ・メモリに書き込まれており、ソフトウェア部分と同様に、消去や書込みができます。ですから、単にロードし、(FTP と Telnet で)ネットワークからコマンドを実行することにより、ウェブ・ページをアップデートする容易な方法を提供します。

注意：コンテンツ・ページのアップデートは、システム・オペレーションに非常に敏感です。ですから、不適切なオペレーションは、リクエストによる応答に対して、システム障害を引き起こす恐れがあります。以下のオペレーションは、経験豊富なシステム・インテグレーターのためのものです。コンテンツのアップデートを行う前に、必ずディストリビューターやディーラーに相談してください。

次の手順で、ウェブ・ページをアップデートします。

1. システムをクリーン・アップする。
   ページをアップデートする前に、IP スピードドームを工場出荷時のデフォルト状態に戻します。Load Default(デフォルトをロード)ボタンをクリックし、Save Changes(変更を保存)ボタンをクリックし、次に設定ページの Reboot System(システムをリブート)ボタンをクリクします。IP Fast Dome を、他のステーションからのすべてのビデオ・リクエスト停止する、アイドル状態にします。

2. 完全なウェブ・ページをダウンロードする
   バックアップ目的で、アップデートする前に、完全なビルトイン・コンテンツをダウンロードしなければなりません。
   ページのレイアウトは、次のように記述されます。

- 3.0.0/WWW：スタティック HTML ページおよび JAVA アプレットを含む、メインのビデオ・ページ。
- 3.0.0/WWW/images：すべてのグラフィカル・ファイル。
- 3.0.0/WWW/lang1：ユーザー定義言語 1 に関するすべての HTML ページ。
- 3.0.0/WWW/lang2：ユーザー定義言語 2 に関するすべての HTML ページ。
- 3.0.0/Sys：ビデオ・ビットマップ・フォント・ファイル(タイム・スタンプとテキスト・ビットマップ)
- 3.0.0/public：内部メッセージ・ファイル。

注：システムにログインするとき、デフォルトのルート・ディレクトリは、3.0.0/です。これらのファイルは内部で使用されるのみであるため、3.0.0/Sys と 3.0.0/public は、変更してはなりません。

参考までに、幾つかの FTP ユーティリティ(例：CuteFTP、WSFTP)は、完全なページを

ダウンロードするのに役に立ちます。

3. カスタム・ウェブ・ページをアップロードする

FTP ユーティリティを利用して、オリジナル・ディレクトリにアップデートまたは追加されたコンテンツをアップロードすることができます。たとえば、LILIN バナー・ロゴ(logo.jpg)をカスタム・メイドのイメージに替えたい場合は、まずイメージを準備して、3.0.0/WWW/images にアップロードします。

注:IP スピードドームにアップロードされるファイルは、FTP ユーティリティにおいて、バイナリー・モードに設定しなければなりません。さもないと、ファイルは、IP スピードドームで壊れる恐れがあります。

4. アップデートされたコンテンツを確認する

カスタム・ページをアップロードした後に、ブラウザを開いて、コンテンツの適切さを確認します。適切でない場合には、ページを修正し、以前のステップに戻って、もう一度アップロードします。

5. フラッシュへの変更を保存する

IP スピードドームへ Telnet で転送します。コマンド Up-w を実行して、完全なウェブ・ページを
フラッシュに書き込みます。詳細な手順を次に説明します。

- DOS ウィンドウを開きます。
- 「telnet<IP Fast Dome の IP アドレス>」を入力します。
- ユーザー・ネームとパスワードとして、それぞれ root と pass を入力します。
- Up-w を入力して、ウェブ・コンテンツのアップデート・プログラムを開始します。このコマンドは、大文字と小文字を識別します。大文字と小文字を間違えて入力してはなりません。さもないと、エラー・メッセージが表示されます。
  約 30 秒間の処理の後に、IP Fast Dome が自動的に再起動し、ウェブ・コンテンツのアップデートが完了します。
  次に、ブラウザを開いて、新しいウェブ・コンテンツを見ることができます。

注:コンテンツ・ページ全体のサイズの制限は、約 700 キロバイトです。オリジナルのダウンロード・ファイル(～550 キロバイト)に加えて、追加またはアップデートされるファイルは、このサイズを超えてはなりません。さもないと、幾つかのファイルが、

切り捨てられるか、壊れます。ページの破壊が生じた場合には、破壊されたファイルを回復するために、オリジナルのバイナリー・ファイルをもう一度ロードしなければなりません(付録 A「Upgrading the software」(ソフトウェアのアップグレード)を参照してください)。

たとえば、スピードドームの IP アドレスは、192.168.0.200 ですから、手順は次のとおりです。

```
C:/temp>telnet 192.168.0.200

C:/temp>

Telnet session(Telnet セッション) <=Telnet セッションを開始します。

Login(ログイン・ユーザーネーム):root
Password(パスワード): <=デフォルトで pass を入力します。

Welcome to VidSvr on Telnet…(Telnet の VidSvr にようこそ)

IVS>Up-w

Upgrade WWW pages…(WWW ページをアップデートします) <=ここでフリーズしたら、ブラウザを閉じて、再び開きます。30 秒後に、変更を確認します。
```

付録 C. Emergency Factory Default(緊急工場出荷時デフォルト)

ある場合には、サーバーを当初の工場出荷時のデフォルト状態に回復することが必要となりますが、通常、ウェブ・ページを通して処理されます(Miscellaneous Operation(その他のオペレーション))。ユーザーが(たとえば、ユーザー・ネームやパスワード情報がないために)ウェブ・ページにログインすることができない場合には、工場出荷時のデフォルト状態を回復するために、Emergency Factory Default(緊急工場出荷時デフォルト)を利用することができます。

手続は、次のとおりです。

1. 電源を切ります。
2. スモール・ワイヤーまたはスイッチで、GPIO Input 4 を GND に接続します。
3. 電源を入れます。Status LED(ステータス LED)が 2 回点滅し始めたら(オレンジ色)、ワイヤーまたはスイッチを開放して、GPIO Input 4 を即座に開放状態に戻します。
4. サーバーは、工場出荷時のデフォルト状態を回復し、再起動します。

注：電源を入れて、ステータス LED が点滅し始めるとき、3 秒以内で GPIO Input 4 を開放状態に戻さないと、サーバーはブート・シーケンスを継続し、工場出荷時のデフォルト状態を回復しません。

付録 D. Trouble Shooting(トラブル・シューティング)

1. 電源が入らないとき。
   - 1-1. 電源接続を点検します。
   - 1-2. PCB のヒューズを点検します。
   - 1-3. カメラ本体とベースの接続を点検します。

2. ビデオが作動しないとき。
   - 2-1. カメラのビデオ出力の接続を点検します。
   - 2-2. ケーブルを点検します(破損していないか)。
   - 2-3. モニターのビデオ入力の接続を点検します。
   - 2-4. カメラ本体とベースの 20PIN 接続を点検します。

3. テレメトリーが作動しないとき。
   - 3-1. カメラの ID スイッチの設定を点検します。
   - 3-2. カメラの RS-485 ケーブル IN/OUT の接続を点検します。
   - 3-3. キーボードの RS-485 ケーブル IN/OUT の接続を点検します。
   - 3-4. IP Fast Dome が Auto Pan(オート・パン)モードになっていないか点検し Auto Pan を無効にします。
   - 3-5. アラームが起動されていないか点検し、起動されたアラームを取り消します。

4. フォーカスが適正に行われないとき。
   - 4-1. ドーム・カバーまたはケーシング・カバーに埃がついていないか点検し、乾いた布でカバーを拭きます。

5. IP Fast Dome がウェブ・ブラウザからアクセスすることができないとき。

5-1. IP アドレスが、すでに別のデバイスによって使用されているとき。
5-1-1. ネットワークから IP Fast Dome を切断します。
5-1-2. (「Assign IP Address by ARP」(ARP による IP アドレスの割当て)の章の
PING Your IP Address(IP アドレスに ping コマンドを実行するで説明されている)
PING ユーティリティを実行して、該当する勧告に従います。
注：割当てられた IP 番号は、PING ユーティリティが request timed out(リクエストがタイム・アウト)を返信する場合に有効であるとみなすことができます。その場合、IP アドレスを設定しなおして、IP Fast Dome の電源を入れ、ユニットにもう一度アクセスします。

5-2. IP アドレスが異なったサブネット内に位置するとき。
(「Assign IP Address by ARP」(ARP による IP アドレスの割当て)の章の
PING Your IP Address(IP アドレスに ping コマンドを実行する)で説明されている)PING ユーティリティを実行します。ユーティリティが、
no response(応答なし)または同様の趣旨を返信する場合には、次の手順を実行して下さい。
Windows 95/98 または Windows NT においては、次のように、IP スピードドームの IP アドレスがワークステーションと同じサブネット内に位置することを確認します。
5-2-1. Start(開始)、Settings(設定)、Control Panel(コントロールパネル)、
Network(ネットワーク)をクリックします。
5-2-2. TCP/IP アダプタを指定し、Properties(プロパティ)をクリックします。
次に、Properties(プロパティ)の IP Address(IP アドレス)をクリックします。
5-2-3　IP スピードドームの IP アドレス内の最初の 3 桁の数が、
ワークステーションの最初の 3 桁の数と一致することを確認します。
さもなければ、IP スピードドームは異なったサブネットに位置している可能性があり、IP アドレスは、ワークステーションから設定することができません。
同じサブネットのワークステーションから IP Fast Dome の IP アドレスを設定しなければなりません。